

# 小学校国語科の「話すこと・聞くこと」指導について〔二〕

——教科書五種の記述を比較して（中・高学年の部）——

武 山 隆 昭

## はじめに

平成十年十二月に改訂され、現在実施されている「小学校学習指導要領」（以下「現行指導要領」と略称する）は、平成元年版と比べて「話すこと・聞くこと」の指導を強化するように示していることが特徴の一つである。すなわち、「2内容」の記述が「A表現」「B理解」「言語事項」から、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」「言語事項」の三領域一事項へと変更され、音声言語により伝え合う能力の育成をはっきりと謳っているのである。

この点は「中学校学習指導要領」でも同様であり、現行指導要領準拠の中学校国語教科書五種を比較検討した拙稿<sup>①</sup>でも述べたように、各社とも「話すこと・聞くこと」の指導分野に、以前より多くのページを取り、指導要領の趣旨に沿って、音声言語の指導を強化しようとする意図が窺われる。

そこで本稿では、小学校の教科書が「話すこと・聞くこと」の指導をどのように扱っているか、各教科書出版社の

工夫のあとを検証し、併せて小学校の音声言語による伝達能力の効果的育成方法について提言してみたい。

よく「教科書で教えるのであって、教科書を教えるのではない」と言われる。しかし、国語科という教科は、他教科と比べ教材に寄りかかる度合いの強い教科である。したがって、「話すこと・聞くこと」の指導においても、課題や場面設定など教科書の記述が、授業の効果を左右する。そこで、平成十七年度に全国の小学校で使用されている、「国語科」用の文部科学省検定済教科書五種、すなわち、東京書籍『新編新しい国語』(113～614)<sup>②</sup>、大阪書籍『小学国語』(115～616)、学校図書『小学校国語』(117～618)、教育出版『ひろがる言葉小学国語』(119～620)、光村図書『国語』(121～622)の計六十冊を比較考察の対象とする。(一年生用は『こくこ』となっているが、六年生用の表記で代表させた。)なお、本論での引用に当たり、順に、東書、大書、学図、教出、光村と略称する。

どの社も、読み物教材(物語・説明的文章等)の後の「学習の手引き」で、「声に出して読みましょう」「その人物になって気持ちを伝えましょう」「くまじいさんは酒をどうしましたか。話し合いましたか。」「感想や意見を出し合おう」など「話すこと」に關係する学習活動を取り入れている。これらの設問や、日常の「問答法」を採用した授業など、本来国語の授業はすべての言語能力が総合的に關係して進行するわけであるから、話すことの課題の記述が0.5頁に満たない「手引き」は一々採り上げず、単純化して「話すこと・聞くこと」を主とする單元(又は教材)だけを採り上げることとする。ただし、劇や発表会は採り上げた。なお、單元名・教材名の次の( )内の数字は頁数である。量的な比較を容易にするため、その項目に何頁使って記述しているかを見る。まず、各社の記述内容を学年ごとに概略紹介し、後に考察を加える。

なお、枚数制限の關係から、別稿で一、二学年を採り上げたので、本稿では主として中(三・四)学年と高(五・六)学年を採り上げ、「まとめ」として全学年を視野に考察する。現行指導要領では、「第2 各学年の目標及び内容」

を二学年ずつまとめて記述しており、妥当な分け方であると考ええる。(平成元年版までは、学年ごとに記述されていた。)

## 一 第三学年の教科書

東書三上。「二 自分をしゃくかいするスピーチをしよう」という単元で、「知ってほしいな、自分のこと」(4)と題して、自分のことをクラスで紹介するスピーチをする学習。まず知ってもらいたいことを書き出し、練習をし、スピーチする。「どちらがすきーことがらごととにまとめてはなしましよう。メモを取りながら聞きましよう。」(5)は、犬と猫、ご飯とパンなど似たもの同士を比べてどちらが好きか、先生とクラスの人に聞き、メモを整理しまとめて、話す学習。「五 中心をはっきりさせてせつ明しよう」(7)では、学校や家の近くに、お気に入りの場所があったら、お互いに紹介する学習。場所を決めたら、紹介したい理由をまとめ、その場所についての情報をインタビューなどで集め、発表の台本を作る。写真や図を見せるタイピングなども練習をし、発表会を開く。

東書三下。「いろいろなお祭りや行事について調べて、しゃくかいしよう」(3)では、お祭り行事の世話をしている人や、昔のことを知っている人、参加した人などにインタビューすることを課し、「インタビューを上手にする」という囲み記事を載せる。「四 よりよいくらしについて話し合おう」で、「もうどう犬の訓練」という読み物を読んだ後、「本で読んだり、いろいろな資料で調べたりして、分かったことや考えたことについて話し合ってみよう」(5)という学習。質問・意見・感想も出し合う。その他、「音読発表会をする」(1)、「ふろく」「だいいなことをたしかめよう」の「話すとき、聞くとき、話し合うとき」の「スピーチをする」(「ことがらごととにまとめて話す」)「メモを取り

ながら聞く」(インタビューをする)(1)も加える。

**大書三上。**「わたしのたから物を話そう」(2)は、自分が大切にしている宝物のことを級友に紹介する学習。紹介する物を決めたら、話すためのメモを作り、大切なことが分かるように話す。聞く人は、しっかり聞いて後、感想を書く。「わけをせつめいしよう」(2)は、自分の好きなこと・したいと思うことなどを相手に伝える時、わけをいっしょに説明すると、よく分かってもらえるとして、「それはうだからです」などの言い方を学ぶ。「インタビューの計画」(6)では、計画を班で話し合い、実施し、学級で発表し合う。

**大書三下。**「山の湖のできごと」(3)は、見開き二頁の湖の絵を見て、お話を作る学習。「やまんばのにしき」という民話を読んで、「話のつづきを考えて、発表する」「いろいろな民話を読んで、友達に紹介する」(0・5)。

**学図三上。**「二人で話しましょう」(2)は、「とっておきのたからものを友だちにしようかいしよう」という大書上と同じねらいの学習(ただし対話の設定)。「2 思いをつたえ合おう」の前半「友だちっていいな」(6)は、友達と楽しく過ごしたことや、困っている時に助けてもらったことなど、友達にまつわる体験・思い出を話し、聞いた人はグループで感想を話し合うという学習。「(しりょうへん) インタビューのしかた」(0・5)。

**学図三下。**「わにのおじいさんのたから物」という読み物を読んで、「しについて、みんなで話し合しましょう」(1)という「学習の手引き」がある。「あの子をさがして」(2)は、屋台店の並ぶ縁日の人出の絵を見て、「相手にヒントを出して、絵の中の友達を当ててもらおう」という設定。必要なことを落とさずに言わないと、当ててもらえない。「クラスみんなにしようかいしよう」(2)は、昔から伝わっている迎春の行事を調べ紹介する学習。「詩のおもしろさや楽しさをつたえ合う発表会を開こう」(1)。「(しりょうへん) 司会のしかた」(0・5)。

**教出三上。**巻頭に第○單元「さあ、はじめよう 元気に声を出し合おう」がおかれ、詩二編を読んだ後、「スピーチ

をしよう」(4)で、見開き二頁の「子供広場」の絵を見て、「今日一日何をして遊ぶか、楽しい計画を立てて、友だちをさそう」というスピーチをする学習。「スピーチメモ」の作り方、聞く時の心得などを記す。つづいて、「声の大きさ、話す速さ」(2)がある。第二單元の中に「インタビューをしよう」(2)というコーナーがあり、調べていることについて専門家に尋ねるように指示している。「四 楽しくつたえ合おう」の「グループで話し合おう」(4)は、学級内の係の仕事について「係ごとに話し合う」設定。巻末付録に「電話のかけ方」(2)を載せる。

**教出三下。**「三 身近な話題をとらえて話し合おう」は、まず「町で見かける交通標識や非常電話などの絵を見つけて、カードにかき、友だちと紹介し合う。」(2)につづいて「くらしと絵文字」という読み物を読んで、「絵文字発表会」をしよう」(3)という指示。オリジナル絵文字を作りカードに描いて、考えたことがよく伝わるように「スピーチメモ」を作り、発表会をする。

**光村三上。**「道あんないをしよう」(3)は、一頁大の町の鳥瞰図を見て公民館などの場所を教える練習。続いて「たしかめながら話す、聞く」(1)という説明文を掲載。「五 進んで話し合い、発表しよう」という單元では、『分類』ということ」をテーマに「話すこと・聞くこと」の学習を組織している。まず、さまざまな色や動作をしている二十二匹の猫の絵をみて、「二つか三つのグループに分けましょう」(3)という作業を課し、「何を手がかりにして分けたのかを話し合って、たがいの考えの同じところやちがうところを見つけましょう。」と進む。「分類」という三頁の読み物の後、「発表しよう」(1)で、「身の回りで分類されているものをさがして、何がどのように分類されているか、その分類がどんなことに役立っているかを発表しましょう。」とある。次頁に「インタビュー」(1)という囲み記事があって、インタビューの要領がまとめてある。

**光村三下。**「考えを整理して話し合おう」(3)は、ポートボールのチーム名を「話し合いの進め方」にそって話し

合って決めるという学習。「意見を言う時には、なぜそう考えたかという理由も伝える」「おたがいの意見のよいところを生かすように考え、発言する」とある。

## 二 第四学年用の教科書

東書四上。「一 出来事をしようかいするスピーチをしよう」(4)は、身の回りで起こったおもしろいこと、感動したことなど、知ってもらいたい出来事を話題にしてスピーチをする。「時、場所、人物、どうした」の項目に書き入れた題材をもとに、題を付けてスピーチメモを作る。メモをもとにして話す練習をし、学級でスピーチをする。「分かりやすいスピーチをする」という囲み記事が付いている。「朝の会や帰りの会で、二、三人ずつ一分間スピーチをしよう」(0. 5)。「電話で伝え合おう」(4)では、「大事なことを、事柄ごとにまとめて話す」「メモをとりながら聞く」などに注意して正しく伝え合う実践をする。次頁には「伝言ゲームをしよう」(1)がある。「五 すじ道を立てて説明しよう」(8)では、「生活のくふう」をさがしメモにまとめ、さらに調べたり情報を集めたりして、発表の台本を作る。聞き手の興味を引くように工夫し、練習をする。役割を決めて発表会をする。

東書四下。第二単元で「ウミガメのはまを守る」という読み物を読んだ後、自分たちの学校や、住んでいる地域で行われている「環境を守るくふう」について調べるために、役所の係の人などにインタビューをする(1)ことを提起し、「インタビューの心がまえ」二項目を挙げる。「読書会を開こう」(1)では、読んだ本の感想を「課題」にそって話し合う。「四 くらしの中の世界について話し合おう」では、「くらしの中の和と洋」という読み物を読んだ後、「『はし』と『フォーク』」「『ゆかた』と『パジャマ』」などの話題を決め、話し合う(4)。「ごんぎつね」でも「読書

会をする」(0、5)を指示。

**大書四上。**「ニュースを話そう」(2)では、「自分の身の回りで起こったできごとを、ニュースにして、みんなに伝えましょう。」として、伝えようとすることをメモに整理し、アナウンサーになったつもりで、声の調子や、間の取り方を考えて練習し、聞き手の様子に気をつけて話す。「分類して説明しよう」(2)は、オーケストラの楽器を、音の出し方に注目して、弦楽器・管楽器・打楽器に分類して説明する例を示し、「……ことを、見方を決めて分類し、分かりますように説明してみましょう」とする。「五 話し合って考えをまとめよう」(6)は、「学級の行事がうまく進み、楽しくなるように、学級の人みんなで話し合いましょう」という単元。実例を示しながら話し合いの進め方を記す。付録「国語の広場」では、「お話のたね 地いきや自然からさがそう」(2)は、山や海や工場などの見える鳥瞰図を手にかりに、話したいことを見付けるコーナー。

**大書四下。**「ごんぎつね」で「(あらすじをまとめて、聞く人によくわかるように発表する。)(次の時の、ごんや兵十の様子を想像して話し合う。)(工夫して声に出して読む)」(1)という課題を示す。「進化した路面電車」では、「未来の交通のしくみについて考え、話し合いましょう」など(0、5)話し合うことを課している。「風のゆうれい」では、「三つの場面で、二人がそれぞれがった行動をとったわけを考えて発表し、話し合う」(0、5)。

**学図四上。**巻頭「二人で話そう」とっておきの話」(2)は、おもしろい話やかわいい話を、話す順序を考えて、聞く人をしっかり引きつけるように話す。「2 中心をはっきりさせて伝えよう」(6)は、「わたしはレポーター」と題して、町や地域の紹介したい場所・お店・建物などを選び、それについて取材したり調べたりしたことを発表する学習。取材の準備、取材中の注意事項、発表の内容整理、発表会を進める。「コミュニケーション 心をとどけよう、受け止めよう」(2)では、例示した素っ気ない応えを言い換えることを通して心の届く会話を学ぶ。資料編の「電話のしか

た」(0. 5)「司会のしかた」(0. 5)も加える。

**学図四下。**「こんぎつね」の後に、「ごんの心情について話し合う」(1)課題がある。「かざりつけはどうする」(2)は、グループのみんなで食べるケーキのかざりを話し合いで決める学習。「文化のちがいを調べて発表しよう」(4)では、いろいろな国の文化や生活のちがいを、グループごとに調べ、感想を加えて発表し合う学習。資料編の「電話のしかた」(0. 5)「司会のしかた」(0. 5)「ポスターセッション」(1)も加える。

**教出四上。**巻頭の第○単元「元気に声を出し合おう」では、「楽しいスピーチをしよう」(4)で、自分のことをもっとみんなに知ってもらうために、「自分の名前の付けられた由来」「おもしろ体験」「わたしのおすすめ」などから一つ題を選んでスピーチする。「読む速さ、声の強さ」(2)では、間の取り方を工夫して人物の気持ちや場面の様子が伝わるように朗読する学習。「やい、とかげ」という読み物の「学習のてびき」は、「題名について話し合う」「好きな場面を選んで『一人語り』か『一まい紙しばい』を発表する」(2)。「四 楽しく伝え合おう」では、『みんなで遊ぼう集会』を開こう」(4)と題して、遊び係の提案をもとに、どんな遊びをするか学級で話し合う。会議の進め方の学習である。付録の「音読記号」(1)は、声を出して読む時に実行するべき注意記号を、文章に付ける学習。速く読むところには——線、強く読むところには——線など。

**教出四下。**「アジアの笑い話」では、最後に「落語や漫才を演じるグループ」(0. 5)のことが出てくる。「ポスターセッションで発表しよう」(8)は、「身のまわりの道具や設備が誰にとって便利なのかを、グループで調べ、調べたことを分かりやすく伝えるように工夫してポスターを作り、発表する」という学習。付録の「言葉の遊び」(2)は、「形あてゲーム」「なぞかけ」など「話すこと」に関係した遊びが提起してある。

**光村四上。**「三つのお願い」という読み物で、「音読のくふう」(1)「次の話題のどれかについて発表しよう(体験



など)」「(0.5)という学習コーナーがある。「大事なことを落とさずに話したり聞いたりしよう」という单元では、「伝言はまちがえずに」「(2)と題して、電話で伝言を依頼する場面を設定し、「相手が聞き取りやすいように話す。正確にメモを取る練習をする」などの学習をする。「白いぼうし」という読み物の「学習」はすべて「発表しましょう。話し合ってみましょう」「(1)」「(5)調べて発表しよう」では、「たくさんの人たちと、より深く分かり合うにはどうしたらよいか」というテーマで、参考資料で調べ発表する。資料「手と心で読む」を除き(6)とカウント。

光村四下。「話し合って決めよう」(4)は、意見をまとめるための話し合いの進め方を学ぶ。「言葉遊びの世界」(7)は、しゃれ・などなど遊び・回文などの言葉遊びを考えて、みんなに紹介する单元。巻末付録「言葉のおうえんだん」(2)は、運動会の絵を見て、「走り終わった人に言う言葉を考えて、空いているふき出しに入れましょう。ふき出しの中の言葉を使って、短いお話を考えましょう」という学習。

### 三 中学年の考察

次頁の表Ⅰは、三・四年生用の教科書に掲載されている「話すこと・聞くこと」に関する記述を、項目別(話す場面設定別)に整理したものである。

朗読は、「話すこと」指導の出発点と位置づける。東書三上「声に出して読もう。読むときに工夫することを考えよう」という一頁にわたる「てびき」と、教出四上、光村四上の「音読のくふう」を採り上げたが、他社も読み物教材の学習の手引きで「声に出して読む」ことを課している。(表に数値は載せていない)。

「二人で話しましょう」という一対一の「対話」と、コミュニケーション(会話)を重視しているのは学図である。

表Ⅰ 中学年における「話すこと・聞くこと」の記述

(算用数字は頁数)

| 教科書出版社               | 東 書 |     | 大 書 |   | 学 図 |   | 教 出 |     | 光 村 |     |
|----------------------|-----|-----|-----|---|-----|---|-----|-----|-----|-----|
| 学 年                  | 三   | 四   | 三   | 四 | 三   | 四 | 三   | 四   | 三   | 四   |
| 音読発表会をする 音読のくふう      | 1   |     |     |   |     |   | 2   |     | 1   |     |
| とっておきの話を相手に伝える (対話)  |     |     |     |   | 2   | 2 |     |     |     |     |
| 心の届く会話をしよう (会話)      |     |     |     |   |     | 2 |     |     |     |     |
| 確かめながら話す・聞く          |     |     |     |   |     |   |     |     | 1   |     |
| 自己紹介、計画のスピーチ         | 4   |     |     |   |     |   | 4   | 4   |     |     |
| 出来事 ニュースを紹介するスピーチ    |     | 4.5 | 2   |   |     |   |     |     |     |     |
| 友達の思い出・町の店・体験を話す     |     |     |     |   | 6   | 6 |     |     |     | 0.5 |
| 事がらごとにまとめて話す         | 5   |     |     |   |     |   |     |     |     |     |
| 民話を紹介する              |     |     | 0.5 |   |     |   |     |     |     |     |
| 迎春の行事を調べ紹介する         |     |     |     |   | 2   |   |     |     |     |     |
| 宝物、町で見付けた物を紹介する      |     |     | 2   |   | 2   |   | 2   |     |     |     |
| お気に入りの場所を紹介する (説明)   | 7   |     |     |   |     |   |     |     |     |     |
| 絵を見て 話題を見つける・説明する    |     |     | 3   | 2 | 2   |   |     |     | 3   | 2   |
| わけを 筋道を立てて 説明しよう     |     | 8   | 2   |   |     |   |     |     |     |     |
| どのように分類するかされているか説明   |     |     |     |   |     |   |     |     | 4   |     |
| 分類して説明しよう            |     |     | 2   |   |     |   |     |     |     |     |
| 分かったこと、考えたことを話し合う    | 5   |     |     |   |     | 2 |     |     |     |     |
| 物語の内容についてみんなで話し合う    |     |     | 1.5 | 1 | 1   |   |     |     | 1   |     |
| 暮らしの中の世界について話し合う     |     | 4   |     |   |     |   |     |     |     |     |
| 考えを整理して話し合う考えをまとめる   |     |     | 6.5 |   |     |   |     |     | 3   |     |
| グループで話し合おう 会議の進め方    |     |     |     |   |     |   | 4   | 4   |     | 4   |
| (文化の違いを) 調べて発表しよう    |     |     |     |   |     | 4 |     |     |     | 6   |
| 詩のおもしろさや楽しさを伝える発表会   |     |     |     |   | 1   |   |     |     |     |     |
| ポスターセッション            |     |     |     |   |     | 1 |     | 8   |     |     |
| 読書会を開こう              |     | 1.5 |     |   |     |   |     |     |     |     |
| インタビューを計画し実施する       | 3   | 1   | 6   |   | 0.5 |   | 2   |     | 1   |     |
| 電話のかけ方 電話で伝え合おう 伝言   |     | 4   |     |   |     | 1 | 2   |     |     | 2   |
| 一人語り・一まい紙芝居・落語・漫才    |     |     |     |   |     |   |     | 2.5 |     |     |
| 言葉遊び (伝言ゲーム、絵文字発表など) |     | 1   |     |   |     |   | 3   | 2   |     | 7   |
| 司会の仕方                |     |     |     |   | 0.5 | 1 |     |     |     |     |
| 声の大きさ・高さ・強さ・話す速さ     | 1   |     |     |   |     |   | 2   |     |     |     |
| 音読記号                 |     |     |     |   |     |   |     | 1   |     |     |
| 巻末、話すこと・聞くことのまとめ     | 1   |     |     |   |     |   |     |     |     |     |

一対多という場面の「スピーチ」や「発表」の前に、まず採り上げたい項目である。光村三上の「確かめながら話す・聞く」も、対話の場が基本になるのでこの項に入れた。

「スピーチ」「みんなの前で話す」は、テーマこそ違え各社とも採り上げている。何について話すのかという点に各社の特徴が見られる。現行指導要領に「身近な話題についてスピーチすること」と示されていることの反映である。

「紹介する」「説明する」という課題も、各社とも設定している。町で見付けた興味深い店や建物、伝統行事などについて、聞いたり調べたことをクラスで紹介・説明する。また、低学年に見られた、「絵」を見て話題を見付けて、その題材について説明する学習も三社で採り上げている。町の鳥瞰図を見て道案内をする、運動会の絵を見て走り終わった人に言う言葉を考える、などである。

「話し合い」「会議」の項では、話題・議題の選び方がポイントになる。各社とも工夫を凝らしているが、暮らしの中の和と洋について話し合う東書四下の単元は楽しく学習できそうである。教出四上と光村四下は、「話し合いの進め方(会議のルール)」について述べている。学校児童会にも代議員が出席する年頃になったのであるから、ぜひ載せていただきたい事項である。

「発表する」「発表会を開く」は、「スピーチ」「紹介」よりも大がかりなので、別項とする。テーマを決め、数人のチームで協力して調べ、資料や図を作り、役割を決めるといった準備に、相当の時間とエネルギーを使っている。トだからである。ポスターを掲げながら発表する「ポスターセッション」もこの項に入れる。

「インタビュー」は、五社ともに三年生で採り上げている。現行指導要領には「インタビュー」の文字はないが、「身近な出来事や調べた事柄について報告したり」とある情報収集の有力な手段だからである。役所の担当者・村の古老などにインタビューして聞いた貴重なお話は、報告・発表会の有効な資料となる。

以上、話す場面別に教科書の記述を見てきたが、場面としてはその他に、「電話で伝え合う」「読書会を開く」「一人語りをする」「伝言ゲームをする」「言葉遊びをする」を挙げることが出来る。

話す場面の設定ではなく、話すための基礎知識・話すテクニクといった「話すこと・聞くこと」についての注意事項をまとめた記事として、「司会の仕方」以下をまとめて掲げた。教出四下「落語・漫才」は、大書六下でも掲載している。

#### 四 第五学年用の教科書

東書五上。「一 表現のくふうを考えながら声に出して読もう」では、「てびき」で、「声に出して読もう」「詩に、声に出して読む時にくふうすることを書き込み、読み方を練習しよう」(1)。次頁に「声の調子と音の高低」(1)という囲み記事がある。「二 自分の考えを伝えるスピーチをしよう」という単元では、「伝え合おう、五年生でがんばりたいこと」(4)と題して、これからがんばっていきたいことをスピーチする学習。「スピーチメモを作って、練習し、分かりやすく伝えるように心がけてスピーチする。聞く時は、よく聞き感想を持つ。」「朝の会や帰りの会で、一分間スピーチをしましょう」(0・5)。「会話をはずませようー相手の話の意図を考えながら聞き、かみ合った会話をしよう」(5)では、かみ合った会話とかみ合わない会話の例を挙げ、会話を成り立たせるにはどうしたらよいかを考え学習する。「五 話の組み立てをくふうして」では、「ニュースを伝え合おう」(8)と題して、「話題をつかみ、情報を整理し、話し方をくふうし、ニュースを伝える発表会をする」。

東書五下。「三 いろいろな角度から考えて書こう」で、いろいろな角度から考えるために、「話し合って、意見を

メモする」(0. 5)ことを課している。「四 身近な生活について討論しよう」では、「インスタント食品とわたしたちの生活」という六頁の文章を読んだ後、「インスタント食品をめぐる討論をしよう」(4)として、「ディベート」を行う単元。「ディベートの手順・上手に行うための要点」を囲みで示す。「昔話の『語り』をする」(3)は、「台本なしで話せるように、くり返し練習し」て「語り」の発表をする学習。

**大書五上。**「みんなに相談したいことを話そう」(2)では、「いつも気になっていることやこまっていることなどについて、一分間スピーチをして、みんなでいっしょに考えましょう。」として、スピーチの後意見交換をする。「例を挙げて説明しよう」(2)は、「適切な例を挙げて説明すると、説得力のある説明ができます。」を実践する学習。「五論を組み立てて話し合おう」(8)は、討論会を行う単元。「公園のごみ箱は、なくすべきである。」という論題で、賛成側・反対側のグループに分け、それぞれ説得力のある主張を話し合っ立論する。司会者など役割を決め、討論会を実施する。巻末に「題材のファイル」という題で、「写真・絵や言葉を手がかりに、話したいことや書きたいことを見付けてファイルしましょう」(2)というコーナーが掲載されていて、題材探しに役立つ。

**大書五下。**「読書発表会を開こう」(4)は、「班ごとに読んでみたい本の種類を決め、各自分担して読み、個人カードに書く。班で話し合い、自分たちの考えをまとめる。発表会をする。」という手順を示してある。「ベンチの一日」(3)と題して、見開き二頁に、公園のベンチの絵が、早朝・昼・午後三時・夜という時間差で四枚掲載してある。この絵を見て、「ベンチになって語りましょう」「ベンチの後ろにある大きな一本の木とベンチとの会話を想像して、やりとりしてみよう」という学習。

**学図五上。**巻頭「二人で話そう」(2)は、二人で組になって、おたがいに相手が持ってきた本を当てるゲーム。「相手のヒントをよく聞いて当てよう」という学習。「2 意見を交流しよう」(6)は、グループで話し合ってまとまっ

た意見をもとにクラス全体で話し合うという単元。「コミュニケーション 言葉のいろいろな伝わり方」(2)は、同じ「だいじょうぶ？」という言葉であっても、言い方によって伝わり方が違うことを実感させる学習。巻末資料編「話し方・聞き方・まとめ方」の「司会のしかた」「ポスターセッション」(1)も加える。

**学図五下。**「話し合いが行きづまったら」(2)は、司会の役割の重要性を再認識させる学習。「調べたことをもとにポスターセッションを開こう」(4)は、テーマを決めて、博物館などで資料をもらって調べ、調べたことを、図や写真などを入れて、も造紙などを利用してポスターを作る。ポスターを指しながら、発表メモをもとに話すという単元。巻末資料編「話し方・聞き方・まとめ方」の「メモの取り方」「発表のしかた」「意見や質問の述べ方」「話し合い方」「司会のしかた」(2)も加える。

**教出五上。**巻頭「声に出して伝え合おう」では、「自分をアピールしよう」(4)と題して、「自分について」というテーマで、学級で順番に毎日簡単なスピーチを続けていくことにしたという設定で、「スピーチをするとき、聞くとき」「効果的に話すには」という囲みを付す。続いて「話し方を考えよう」(2)で、調子(イントネーション)と強調(プロミネンス)について実践的に学ぶ。「四 考えを伝え合って深めよう」では、「討論会をしよう」(6)で、遠くにいる友達の日誕生日に、お祝いの気持ちを伝えるのに、手紙がよいか電話がよいか迷っているという設定で、どちらを選ぶか二組に分かれて意見を述べ合う学習をする。「討論会の準備」「作戦の立て方」「主張カード」「反論カード」「討論の流れ」「気をつけよう」「判定の目安」「判定表」が掲載されている。

**教出五下。**「放送原こうを書こう」(四頁)は、「聞いていて分かりやすい文章を書く」という趣旨から、「聞くこと」に関係する学習と位置づけて(1)だけカウントする。「読書発表会をしよう」(4)は、「読むこと」の発展であるが、「ブックトーク」ともいうように、本を題材とした「話すこと」の学習と考え採り上げた。「日本語について調べ

よう」は、「調べる」と「発表する」(4)とからなる。「発表の準備」「発表の仕方」などは「話すこと」の学習である。

光村五上。「インタビュー名人になろう」(3)は、「よりよいインタビューができるように、計画を立て、練習してみよう。」と言う趣旨のもと、する人・される人を交代して実践する。「読書会をしよう」(1. 5)は、読んだ本について内容や感想をメモしておき、メモをもとに発表し、話し合う学習。「五 伝え合って考えよう」は、「ごみ問題ってなあに」という五頁の読み物を読んだ後、「1課題を決めて、調べよう」「2調べたことを、発表したり聞いたりしよう」(2)「3自分の考えを文章に書こう」の三部構成になっている。後に「発表を聞くときの注意事項」がまとめである。

光村五下。「意見を整理しながら、目的に向かって話し合おう」(4)は、『失敗』をめぐる、グループやクラスで話し合いをしましょう」という設定。失敗の体験・具体例を数多く出し合い、それらを分類し、減らす方法について型ごとに意見を出し合う。「三 言葉って、おもしろいな」に、絵の場面を友達同士から生徒と先生に変えたりして、どんな言い方をするか、「実際に演じてみましょう」(1)という課題がある。

## 五 第六学年用の教科書

東書六上。「二 自分の意見を伝えるスピーチをしよう」は、「伝え合おう、私の意見」(4)と題して、興味を持った新聞の記事について自分が考えたことを話すという学習。「話したいことを選び、スピーチメモを作り、スピーチの練習をし、スピーチをする。」という手順を示し、「分かりやすく話す」ための要項も載せる。「朝の会や帰りの会で、ス

ピーチをしましょう」(0. 5)。「気持ちのよい話し方をしよう」(5)では、「相手のことを思いやった言葉づかいをしよう」という実践的学習。「五 役割に応じた話し方をくふうして」は、「ニュース番組を作ろう」(9)と題して、テレビのニュース番組の構成を調べ、参考にしながら自分たちで学校版のニュース番組を作って発表会をしようとして起している。

東書六下。「一 作家と作品をかわらせて読もう」では、宮沢賢治の伝記(十四頁)を読んだ後、賢治や他の作家の作品を読もうと提起。つづいて、「読んだ作品をしょうかいするポスターを作って発表し合おう」(1. 5)とポスターセッションの手順を示す。「四 わたしたちの『未来』について討論しよう」は、「百年前の未来予測」(七頁)という説明文を読んだ後、「『未来』についての討論会を開こう」(5)と題して、「パネルディスカッション」の手順を示し、衣食住・学校・仕事などの分野ごとに討論会をすることを課している。また、「海のいのち」(十一頁)を読んだ後、「ポスターセッション」(1)、「読書会」「語り」発表会」(1)を提起。

大書六上。「うったえたいことを話そう」(2)は、「学級や学校に対して、あるいは社会に対して、自分のうったえたいことを、三分間スピーチで発表しましょう。」という学習。スピーチ例のほか「準備・スピーチ時の心得・聞き手の心得」が記されている。「インタビュ― 地球環境を考える」(十頁)は、広島市の小学六年生四人が、福岡義隆氏にインタビュ―した様子を記録した読み物。「たずね方や答え方にも着目しながら読む」ことを課しているので採り上げた(頁数に入れない)。「五 話し合って新しい考えを生み出そう」(8)は、「未来社会を考える」パネルディスカッションを行う学習。「聞く人に理解され、共感を得られるように話し方をくふうする」などの注意事項も記されている。巻末に「題材のファイル」(2)「表現のくふう」(1)が掲載されている。

大書六下。「読書による異文化交流会をしよう(ポスターセッション)」(4)は、「世界のあいさつ言葉」を調べ集



めて、ポスターにまとめ発表した三班の例などを載せる。「伝記から生き方を見つめよう」(2)は、マザーテレサの伝記を読んで、①ブックトークをする、②ポスターセッションをする。「四 言葉の文化を受けつこう」は、「落語の招待席」(九頁)を読んで、「語りにちよう戦しよう」(4)と小学校生活最後の仕上げとして、「語りの会」を開く学習。六つの班がそれぞれ「物語の後日談を語ろう」「民話を語ろう」「落語にちよう戦」などのテーマを掲げて発表会を開く。

**学図六上。**巻頭「二人で話そう」は、「未来のあなたにインタビュー」(2)という設定。未来の自分になりきって、友達インタビューに答える。「2 意見を交流しよう」では、「わたしたちの学校改善計画」(6)と題し、最上級生として学校のためにできることを考えて、みんなに提案し合う設定。説得力のある提案をするために「提案メモ」を作る。メモができたなら、提案しやすいようにパネルや表を作って、発表の練習をする。学級会で提案して賛否修正意見などを出し合う。「読書会をしよう」(2)は、紹介する本を決め、紹介メモを作り、読書会でメモをもとにして話す学習。「コミュニケーションと心のドア」(2)は、「コミュニケーションがうまくいくためには、おたがいの心のドアが開いていることがとても大切です。」として、「友達とのちがいはかり気にせずには、共通点を探しましょう。」と説く。巻末資料編「話し方・聞き方・まとめ方」(2)は、「効果的な伝え方」「司会のしかた」「ポスターセッション」。**学図六下。**「こんなときどうする？(話し合いの進め方)」(2)は、話し合いで話題が横道にそれた時などにおける司会の役割を学ぶ。「討論会を開こう」(6)では、「エネルギーのむだを省くために、自分たちにできることは何か」というテーマで「パネルディスカッション」をする(ディベートにもふれている)。「考えを広げよう」(2)は、宇宙飛行士のことを書いた読み物を読んで、「感じたことや考えたことをみんなで話し合いましょう」という学習。巻末資料編「話し方・聞き方・まとめ方」(2)は、「司会のしかた」「ディベートのしかた」。

教出六上。巻頭の「リリーススピーチをしよう」(4)は、「身のまわりで起きたことなどを取り上げ、順に前のスピーチを受けて、毎日交代で一人ずつスピーチする。発表し終わったら質問や意見を求める。毎週話題を変える。」という提起。「四 考えを伝え合って深めよう」は、「みんなでつくろう『未来の車』」(4)と題して、「パネルディスカッション」を行う単元。パネルディスカッションの進め方と実例を載せる。

教出六下。『読書座談会』をしよう」(4)では、「読んだ本について、友達といろいろ話し合うと、読書はさらに楽しいものとなります。」という趣旨のもと、テーマ別にグループに分かれて自由に話し合う「読書座談会」を開くという学習企画。第五単元中の「体験を発表し合おう」(2)は、「ボランティアについて知っていることや、体験などを話し合いましょう」という指示。巻末「言葉の遊び」(2)は、「語りべになろう」「さいころトーク」が「話すこと」に直結した遊び。

光村六上。「学級討論会をしよう」(4)は、「学級文庫にまんがを入れる」ことに肯定の意見と否定の意見のグループに分かれ、それぞれの主張をまとめるといった〈準備〉や、〈討論の進め方〉〈討論会の話題例〉を載せる。他社のパネルディスカッションに同じ。第四単元中の「本は友達」の項にある「読書発表会をしよう」(3)は、「みんなでおすめの本をしようかいする」企画で、〈キャッチコピーを考えた紹介文の例〉などを示す。「五 共に考えるために伝えよう」の単元は、「みんなで生きる町」と題して、「身の回りの施設や物について考え、よりよい暮らしのための提案をしましょう」(3)という学習。公共の施設について調べたことを発表し、足りないところはどうすればよくなるかを、みんなで考える。タイミングよく資料を見せながら効果的に話す要領も載せてある。

光村六下。「聞く人の心に届くように発表しよう」は、「今、わたしは、ぼくは」(2)と題して、「十二歳の今、心に思うことを、先生や友達や家族に向けて、スピーチをしましょう」という企画。伝えたいことが、正確に、また印

象深く伝わるように、どのような材料を、どのように組み立てるかを考える。声の大きさや調子、話す速さを考えながら練習をする。「三言葉って、おもしろいな」の中の、「日本のあいさつ言葉にこめられた意味や思いについて、調べたり、友達と話し合ったりしましょう」などの一連の課題を（１）とカウントする。

## 六 高学年の考察

表Ⅱは、第五・六年用教科書の「話すこと・聞くこと」に関する記述を整理したものである。

児童はよく「話すことはありません」と言う。話す・書く材料は、日頃の心がけてストックしておくことができる。大書は、「題材を見付けたらファイルしておこう」と提起している。

「対話・会話」では、相手とかみ合った会話をすること・相手と心の通い合う会話を心がけるべきこと・相手に気持ちよく聞いてもらえる配慮、を課しており、高学年らしい要求水準の高さであると思う。

「スピーチ」では、題材が「自分の決意・考え」「いつも気になっていること」などと高度な話材になっている。大書五上では、公園のベンチになって語るというユニークな課題設定がしてある。

「話し合い」では、「ディベート」「パネルディスカッション」を各社共に掲載している。これも指導要領の記述「計画的に話し合うこと」の反映である。「ディベート」の要領は示しているが、会議のルールについては高学年で全く触れていないので、東書、大書、学図も四年生でぜひ採り上げて欲しいと重ねて要望する。

「発表会」では、読書についての発表会を各社とも採り上げている。指導要領「Ｃ読むこと」に「読書発表会を行うこと」とあることの反映であるが、「話すこと・聞くこと」が主になるので採り上げた。「ポスターセッション」は、

表Ⅱ 高学年における「話すこと・聞くこと」の記述

(算用数字は頁数)

| 教科書出版社              | 東 書 |     | 大 書 |      | 学 図  |   | 教 出 |   | 光 村 |   |
|---------------------|-----|-----|-----|------|------|---|-----|---|-----|---|
| 学 年                 | 五   | 六   | 五   | 六    | 五    | 六 | 五   | 六 | 五   | 六 |
| 題材になる事物を見付けてファイルする  |     |     | 2   | 2    |      |   |     |   |     |   |
| かみ合った会話をしよう(対話)     | 5.5 |     |     |      | 2    |   |     |   |     |   |
| コミュニケーション 心のドアを開く   |     |     |     |      |      | 2 |     |   |     |   |
| 言葉の伝わり方気持ちのよい話し方    |     | 5   |     |      | 2    |   |     |   |     |   |
| 自分について(決意・考え)のスピーチ  | 4.5 | 4.5 |     | 2    |      |   | 4   | 4 |     | 2 |
| いつも気になっていることのスピーチ   |     |     | 2   |      |      |   |     |   |     |   |
| 絵を見て、絵の中にもものになって語る  |     |     | 3   |      |      |   |     |   | 1   |   |
| グループや学級で話し合う        |     |     |     |      | 6    | 2 |     | 2 | 4   | 1 |
| 討論、ディベート            | 4   |     | 8   |      | *    |   | 6   |   |     |   |
| 討論会、パネルディスカッション     |     | 5   |     | 8    |      | 6 |     | 4 |     | 4 |
| 例をあげて説明する説得力のある提案   |     |     | 2   |      |      | 6 |     |   |     | 3 |
| 調べたことを発表する          |     |     |     |      |      |   | 4   |   | 2   |   |
| ポスターセッション           |     | 2.5 |     | 4    | 4    |   |     |   |     |   |
| 読書発表会を開こう、ブックトーク    |     | 1   | 4   | 2    |      | 2 | 4   | 4 | 1.5 | 3 |
| インタビュー              |     |     |     | (10) |      | 2 |     |   | 3   |   |
| 「語り」(昔話・落語)         | 3   |     |     | 4    | (12) |   |     |   |     |   |
| 言葉の遊び「さいころトーク」      |     |     |     |      |      |   | 2   |   |     |   |
| ニュースを伝える発表会         | 8   |     |     |      |      |   |     |   |     |   |
| ニュース番組を作る(役割に応じた話方) |     | 9   |     |      |      |   |     |   |     |   |
| 放送原稿・聞いて分かりやすい文を書く  |     |     |     |      |      |   | 1   |   |     |   |
| 話し方(調子・高低・強調)表現の工夫  | 1   |     |     | 1    |      |   | 2   |   |     |   |
| 司会の役割               |     |     |     |      | 2    | 2 |     |   |     |   |
| 巻末「話し方・聞き方・まとめ方」    |     |     |     |      | 3    | 4 |     |   |     |   |

注) \*は、上の「話し合い」の項に触れてあることを示す。

(10) (12) は、読み物それ自体が、インタビュー、落語である。

四年で採用していなかった東書・大書が採り上げており、これで四社となった。

「インタビュー」は、各社とも中・高学年で二度は実践するように提起している。昔話や古典落語を級友の前で「語る」ことを東書と大書が提起しているが、稿者が六年生の時に先生の命令で、敬老会の余興として村のお年寄りに、「昔話の語り」をして喜ばれたことがあったので、地域の行事とタイアップして児童に「話す機会」を作ってあげることも企画してよいかと思う。また、放送・情報伝達の方面も、高学年なら関心を持つ良い教材だと思う。

話すための基礎知識・話すテクニックといった「話すこと・聞くこと」についての注意事項をまとめた記事として、「音読記号」「話し方のテクニック」「司会の役割」をまとめて掲げた。巻末の「学習のまとめ」で要点を整理して掲げている社が多い。

## 七 全学年を通してのまとめ

表Ⅲは、別稿に掲載した第一・二学年の「話すこと・聞くこと」に関する記述表を項目別に集計したものである。低学年では、まず挨拶と自己紹介から始めるのが各社共通した話すことの出发点である。次に、話す材料を色々示し、それぞれの場面で話が出来るように徐々に慣れさせる。また、「聞くこと」に焦点を置いた教材が配置されているのも特徴である。

表Ⅳは、表ⅠからⅢを、表Ⅲで設定した項目に拠って集計したものである。合計欄を見るに、光村と東書を除くと三社がよく似た数値になっていることは偶然なのか、それとも各社の編集委員各位のバランス感覚が一致したのか、私は後者であると思う。教科書の厚さ(頁数)は文科省の示す基準に従って各社ほぼ同じであるから、教科書全体に

表Ⅲ 低学年における「話すこと・聞くこと」の記述集計

(算用数字は頁数)

| 教科書出版社              | 東 書 |    | 大 書 |    | 学 図 |   | 教 出 |   | 光 村 |     |
|---------------------|-----|----|-----|----|-----|---|-----|---|-----|-----|
| 学 年                 | 一   | 二  | 一   | 二  | 一   | 二 | 一   | 二 | 一   | 二   |
| 話す題材（話すことを見付ける）     | 6   | 4  | 6   | 4  | 8   | 2 | 4   | 4 | 4   | 10  |
| 挨拶と自己紹介             | 2   |    | 4   | 4  | 2   |   | 6   |   | 1   |     |
| 対話・会話（相手の心に伝わる話し方）  |     |    |     | 7  |     | 2 |     |   | 4   |     |
| （宝物の）紹介・説明（級友に向かって） | 14  | 13 | 16  | 11 | 16  | 8 | 8   | 8 | 11  | 5   |
| 話し合い                |     | 5  |     |    |     |   |     |   |     |     |
| 発表会                 | 3   |    |     | 5  |     | 4 |     |   |     |     |
| インタビュー              |     |    |     |    |     |   |     |   |     |     |
| 言葉遊び（伝言ゲーム など）      |     |    |     |    | 2   |   | 2   |   |     |     |
| 発声・声の大きさ・調子・話し方の工夫  | 0.5 | 2  | 2.5 |    | 0.5 | 4 | 5.5 | 1 | 0.5 | 1.5 |
| 聞くことに焦点を置いた学習活動     | 4   |    | 4   |    | 6   |   |     | 4 |     |     |

表Ⅳ 「話すこと・聞くこと」の記述全学年集計

(算用数字は頁数)

| 教科書出版社              | 東 書  | 大 書   | 学 図   | 教 出  | 光 村  |
|---------------------|------|-------|-------|------|------|
| 学 年                 | 全    | 全     | 全     | 全    | 全    |
| 話す題材（話すことを見付ける）     | 10   | 14    | 10    | 8    | 14   |
| 挨拶と自己紹介             | 2    | 8     | 2     | 6    | 1    |
| 対話・会話（相手の心に伝わる話し方）  | 10.5 | 7     | 14    |      | 5    |
| スピーチ・紹介・説明（級友に向かって） | 64.5 | 47.5  | 45    | 34   | 28.5 |
| 話し合い・ディベート・ディスカッション | 23   | 25.5  | 24    | 20   | 20   |
| 発表会、ポスターセッション       | 16   | 13    | 13    | 12   | 8    |
| 読書会、ブックトーク          | 2.5  | 6     | 2     | 8    | 4.5  |
| インタビュー              | 4    | 6 *   | 2.5   | 2    | 4    |
| 電話で伝え合う             | 4    |       | 1     | 2    | 2    |
| 一人語り（落語など）          | 3    | 4     | (12)  | 2.5  |      |
| 言葉遊び（伝言ゲーム など）      | 10   |       | 2     | 7    | 7    |
| 発声・声の大きさ・調子・話し方の工夫  | 5.5  | 3.5   | 17    | 11.5 | 2    |
| 放送に関連した話すこと教材       | 17   |       |       | 1    |      |
| 聞くことに焦点を置いた学習活動     | 4    | 4     | 6     | 4    |      |
| 合 計                 | 176  | 138.5 | 138.5 | 118  | 96   |

\*は(10)。合計には(10)(12)を加えてない。

占める「話すこと・聞くこと」の記述量の割合も似た数値となっていることになる。(指導要領では30/25単位時間程度)。東書が「話すこと」指導を重視した編集になっていることは特筆すべきである。

項目別に検討してみると、「対話・会話」の欄で教出が空白になっていることが気になる。教出として「話し合う」学習等の中で対話も当然なされるはずであるが、「話すこと」の出発点是一对一の会話であるから、特に「対話」の項を採り上げるべきである。特に低学年では、二人一組になって「昨日したことの中で一番楽しかったことを交代で話す」といった学習を組織するとよい。「電話」は大書が空白である。目前に相手がいない場面での「話すこと」の練習は、ぜひ入りたい。「言葉遊び」の欄は、本来「言語事項」に属する学習であるが、「伝言ゲーム」「さいころトーク」など話すことを主とする遊びを、本稿の対象としてカウントしたもので、大書が空白であっても問題はない。

「話すこと・聞くこと」の指導は、「読むこと」指導の教材を「問答法」で授業展開すれば、常に実践されることになる。しかし、改まった場面ではっきりと自分の考えを話せるように指導するためには、教科書にある「話すこと・聞くこと」の単元を活用することが不可欠である。「説明会」「発表会」「討論会」「ニュースを伝える」といった場面を設定し、目的に応じた準備をした上で本番に臨ませる。本番を前にした緊張感が、児童を進歩させるのである。

表Ⅳの集計の中で、数値が最も多いのは「スピーチ・紹介・説明」の項目である。約三割を占めている。これは、一对多の改まった場での「話すこと」を経験する学習である。「一对一」「多数相互」の場と違い、「一对多」の「二」になる機会は、児童の普段の生活においてほとんどないといえる。したがって、国語科の授業において児童にそうした機会を与えることは大変重要である。「話すことは、話すことによって上達する」と言われるように、教室で場を設定し、全ての児童に出来るだけ多くの「話す経験」を積ませることが大切である。各教科書は、この点によく配慮していると言える。

次に数値が多いのは、「話し合い・ディベート・ディスカッション」の項目である。これは、多くの人の意見をしっかりと聞いて、自分の考えを（説得力のある根拠を示して）はっきり述べる学習であり、少し高度になる。司会者の役割も大切であるし、進行上のルールも守らねばならない。「話し合い」は、民主主義社会の基本であり、社会の有意な構成員となるのに欠かせない能力なのであるから、やはり国語科の教室で場を設定し、児童たちに出来るだけ多くの経験を積ませることが肝要である。

総じて、どの教科書もそれぞれ工夫してあり良く出来ていると思う。しかし、項目別に見ると多少濃淡に差があるので、実際に指導に当たられる先生が、その点（自分の学校で使用している教科書の弱点を投げ入れ教材で補うこと等）を考慮して授業を実践されることを望むものである。

## 注

- 1、拙稿「中学校国語科新教科書の脱皮——五社五種を比較調査して——」（『梶山国文学』27号〈平成十五年三月〉）
- 2、文部科学省による検定済みの番号。百桁台が学年、一桁台は奇数が上、偶数が下。
- 3、拙稿「小学校国語科の「話すこと・聞くこと」指導について（二）——教科書五種の記述を比較して（低学年の部）——」（『梶山女学園大学研究論集 第37号』〈平成十八年三月〉）